



左 : 石をめくってカエル探し
 右上 : カメ探し (近くに、民家があると勘違いされそうです)
 右下 : 水田の水路でオタマジャクシ探し

「なにしてまんの?」「何かの調査ですか?」

現地調査に出ると、地元の方に不思議そうな顔でしゃべりかけられることがあります。「ガスのメーターなら向こうですよ。」と言われたこともあります。

「はい。生き物の調査です。」
 「生き物の調査?」「はい、ヘビとかカエルの調査です。」「あーそうですか。暑いのに大変やねー。」
 多くはこんな感じで始まり、会釈をして調査を再開します。冬の調査で「寒いやろ。あたっていき。」とたきぎをしている優しい方にお会いしたこともあります。「これ持っていき。」とミカンをいただいたりすることもあるそうですが、いただき物は女性調査員に多い傾向があるようです。また、話好きなおば(あ)さまにつかまると、どんどん勝手に話が進んでいきます。「ヘビねー。イノシシはようけおるよ。」と生き物の話をするのかと思いきや、「私ここに嫁いできて50年になるんですけど、おとしじいさんが死んで、私

ある日のフィールド・ノートから

なにしてまんの?

一人で畑やってますねん。息子は先週帰ってきたんやけど・・・。」

この時はどうやら私を県の職員と思いつ込み、畑の食害がひどいのでネットを張って欲しいということが言いたかったみたいです。

これはまれな例ですが、地元の方から参考となる生き物の情報が得られることがあります。特に、河川で魚類調査を行っている時にしゃべりかけてくる方には、子供の頃に魚捕りをされていた方が多いようです。さすがに投網やタモ網を持っているので「なにしてまんの?」と尋ねてはきませんが、「何が捕れた?」とか「大きいの捕れたか?」とか尋ねられます。

「ドウゼンは今でもようけおるやろ? アカバチはおったか?」

地方名でおっしゃるので、はじめは何のことかわかりませんが、話を聞いていくうちに「ドウゼン=カマツカ」、「アカバチ=アカザ」ということがわかり、昔の川の様子などを詳しく教えてくださいました。

聞き取り調査以外でこちらから地元の方に話しかけることはありません。しかし、地元の方から昔の様子をはじめ、昔どこにどんな種が生息していたかなど、なかなか文献からは得られないような、地元の方しか知り得ない「地域の情報」をもった方に出会うときがあります。このような情報は調査にとっても役立つ場合があります。そこで、私は「なにしてまんの?」と地元の方に声をかけたたら「はい。生き物の調査です。」と不審がられないように笑顔で返事をして、たとえ話し好きなおば(あ)さまの身の上話であろうと「地域の情報」が含まれていないかどうか、聞き逃さないようにしています。
 (大阪支社自然環境研究室・田中宏治)

ご意見 ご質問
 お待ちしています

素朴な疑問やご感想など下記のアドレスまでお寄せください。お待ちしております。

E-mail :nl-info@chiikan.co.jp

編集後記

最近、都市近郊二次林の植物を対象とした研究をしているが、「こんな奥までが進出しているのか!」「こんな街中でもが残っているのか!」という具合にオドロキと発見の連続である。そんな中に、園芸種だらけの雑木林がある。鳥が人家や街路植栽の木の実を食べて、糞として種子散布をしたもので、林内はシュロ、ヒイラギナンテン、トウネズミモチなどなど、外来園芸樹種のオン・パレード。どうみても、在来の植生の攪乱。しかし、これらのタネも冬の鳥の重要な餌資源であることを考えると、とても悩ましい。

自然再生や都市再生が言われる昨今ですが、概念整理からして、難しいものですね。
 (根本 淳)

News Letter NO.20 2003年11月

【発行】.....株式会社地域環境計画

発行人.....高塚敏

編集中山香代子・根本 淳・鈴木志保子・釣谷佳子・高岡由紀子

東京本社 〒154-0015

東京都世田谷区桜新町2-22-3 NDSビル

TEL 03-5450-3700 / FAX 03-5450-3701

営業窓口...鈴木志保子・根本 淳・高岡由紀子

大阪支社 〒569-1123

大阪府高槻市芥川町1-15-18 ミドリ芥川ビル

TEL 072-684-3182 / FAX 072-684-3184

営業窓口.....中山香代子

北海道支社 〒001-0017

北海道札幌市北区北17条西5-20-303

サンオービルF

TEL 011-717-8001 / FAX 011-717-8021

営業窓口.....中島正雄